

そよかぜだより

第74号
発行 2008.7.20
毎月1回発行
NPO法人
障害者団体連絡会
そよかぜ

<http://www.mmjp.or.jp/soyokaze/>
連絡先
ひばり園 578-0855
FAX 578-0466
くれよん 578-2575
つくしの家 578-0855
あおぞら 570-6110
(お問い合わせ)
資源回収時のご連絡は
「ひばり園」へ

古紙回収量が落ち込んでいます

単価の上昇で奪い合い状態に

最近、古紙の回収量が落ちて
います。私たちとしては、
いままで通り回収作業をして
いるのですが、同じコースを
同じように回収しても集まる
量がだんだん少なくなってい
ます。長い間、そよかぜの回
収に協力していただき、すつ
かり顔なじみになっていられ
家庭の方にそれとなくうかが
つてみると、「近頃、別のと
ころからも頼まれて、そちら
へも出さなければならぬ。

そよかぜさんとは長い付き合
いだから止めるわけにはいか
ない。そこで半分づつにして
両方に協力させてもらうこと
にしました」ということです。
この方いう「別のところ」
は、いままで回収はしたこと
がなく、最近になってはじめ
たそうです。
中国の影響で古紙の単価は
いまでもジリジリと上昇して
います。単価が良くなればな
るほど古紙回収をする団体や

業者は多くなります。その結
果、激しい奪い合い状態にな
ります。
広報「はむら」の最新号に
も、市の収集に出された古紙
等を抜き去り、持ち去る者
がいて、その情報が多くなっ
ているというお知らせ記事が
ありました。単価が上がれば
この傾向はさらに強くなりそ
うです。
現在は、回収量が減っても、
その分は単価の上昇で補って
いる状態ですが、さらに減っ
てくればそれも追いつかなか
なり、そよかぜは減収になり
ます。今そよかぜは、新施設
を目指して少しでも多くの自

己資金を貯えなければなりま
せん。回収の減額は大きな痛
手です。みなさま方のご協力
を心からお願ひします。第三
日曜日に限らず、普段のウイ
ークデイでも回収をしていま
すので、ご遠慮なく、ひばり
園にお電話ください。ご都合
の良い時に伺います。

そよかぜ各事業の

夏休みの予定

- ひばり園 8月9日～17日
 - あおぞら 8月9日～17日
 - つくしの家 8月10日～17日
 - くれよん 8月13日～17日
 - ほほえみ館
- 夏休みの予定はありません

はむら夏まつり
7月26日・27日

くれよん出店します

おでん・ビール・ラムネ
駅前中央通り、99ショップ
の前です。どうぞお立ち寄り
ください。

ご協力ありがとうございました。 6月の募金 52,008円
(順不同) 20年4月～20年6月の合計 132,136円
小林 幸一 様 静光 成子 様 田中 明子 様

ご連絡は、ひばり園へ
羽村市五ノ神2-6-7
042-578-0855

くれよん4月の売上げ
1,004,210円でした。

羽村市内の小中学校と中学
校の生徒のみなさんが、
各学校単位でプルトップ
収集にご協力して下さっ
ています。ありがとうございます。

NPO法人 **そよかぜ** の

《資源回収》に

ご協力をお願いします 新聞、雑誌、ダンボール

(ボロは扱っていません)

6月は26,530tでした。金額は581,770円となりました。
この収益は、NPO法人そよかぜの運営資金になります。
みなさまのご協力ありがとうございました。

8月は第3日曜日17日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

アスペルガーと診断されて精神安定

「原因不明」は心の負担

障害者と判定されて喜んだ母と娘の話

NPO法人東京都自閉症協会は、自閉症児を持つ親が中心になって組織している団体です。その協会が発行している会報「プリズム」には、毎号のように自閉症に苦しむ会員たちの事例が報告されていて、私たちが読んでも参考になる情報誌です。しかし、会員向けに発行された会報ですから、一般にはあまり知られていません。その最新号に、ぜひここで紹介したい事例がありましたので、実名を伏せて、内容を要約して紹介します。

まず本人の手記からです。「私はいま15歳。春から高校1年生になりました。小学2年生から中学時代、ほとんど学校に通っていなかった私が、いま毎日高校に通い、授業を受け、友人とはしゃいで笑っています。母親は私の生活が夢のようだといいますが、私からしてみれば、今

の私こそ一番自分らしいと思っています。過去の私の不登校には、いろいろ理由がありました。最初は本当に軽い気持ちで行きたくなくなってしまっただけでしたが、途中から授業について行けない気がして不安が募りさらに行けなくなり悪循環になりました。

でも今では高校に入学してからまだ1カ月ちよつとですが、生活はとても充実しています。これからも楽しい毎日が送れますように……」

次に母親の手記です。「遊びに勉強に高校生活を満喫しきっている娘が、実はいままででの人生の約半分をい

わゆる引きこもりの状態で過ごしてきたなんて、いま現在の娘に会ったら想像もつかないことと思います。ちょうど7歳の誕生日前後より、ふとしたことがきっかけになり強迫神経症の症状が

出始めました。状態は少しずつ重くなり、ついはその年の暮れには日常生活が送れないほどになってしまいました。繰り返しの手洗いや始まった潔癖症は不潔恐怖へとエスカレートして行き、ついに1日の大半をバスルームの中で過ごすようになってしまったのです。2ヶ月ごとの水道代は7万を超えました。ちなみに4万を超えたあたりから、水道局が漏水の検査に来ます。「お宅、プールはないですよね。」今こそ笑い話ですが、

当時は目の前が真っ暗でした。そして娘のカルテには精神科の病名がずらりと並び、闘病生活に入ってしまったのです。娘はその頃のことを、学校へは軽い気持ちで行きたくなくなってしまったと、さらりと書いていますが、私からすればとても学校どころではなかったというのが事実です。何とか1日が無事に終わりますように：祈りながら1日づつ過ぎてゆく毎日でした。5年生の冬、テレビでアスペルガー症候群の特集が放送されました。目からうろこことはこのことでした。4週くら

いの連続だったと思います。録画して家族で何回も見ました。娘も一緒に見ました。「似てるね」「うん」「これかもしれないね」「うん」「これだったのかもしれないね！」

翌日、私は当時の日本自閉症協会東京都支部を訪ね、すぐに入会しました。まず病院に予約を入れて、図書館に行つて本屋へ行って、関係していそうな本を片っぱしから読み始めました。いまから4年前の7月、国立成育医療センターで待ちに待った結果がでました。娘は聞きました。「先生！私はアスペルガーでしたか？」先生「うんそうだよ、アスペルガーだったよ」その言葉を聞いて私たちは「やったー！」と両手をあげて喜びました。

いままでの長い間のどうしてこうなってしまうのか理解し難い状態も、本人にとって全く不可解でつらかった症状も、やっと謎が解けた思いでした。この診断でやっと辻褄が合ったような気持ちでした。「普通の自閉症や知的障害の

場合、幼児健診のときなどに自分の子が障害者と判定されると親は大きな衝撃を受けます。ところがこの母と娘は先に、障害者と判定されて、両手をあげて喜びます。それまで二人が経験してきた苦悩が、どれほど重いものであったかを物語るエピソードです。なぜこんなことになったのでしょうか。それは母も語っているように、娘の状態がなぜこうなるのかわからない「原因不明」ということでした。なぜだか分からないが、人間関係がうまくいかない。なぜだか分からないが普通の人と同じにやって行けない。なぜだろう、なぜだろうという悩みは何より強く心を痛めます。そのため本来の障害よりはるかに重い神経症を併発させます。得体の知れないもの、正体が分からないものには必要以上の恐怖心をもつのが人間の心理です。そのため母と娘は地獄の日々を送りました。先生の宣言でその呪縛から解放されると、本来のアスペルガーはさほどの障害ではなくなりました。

二年ほど前、「私はアスペルギーです」といつてひばり園に来た一人の青年は「どんな会社に就職しても長続きしない、どうして自分はこんなだろうと、ずいぶん長い間苦しみました。専門医の診察を受けてアスペルギーといわれ、ほっとしました。それからそれで、あとは覚悟を決めてやっけていくだけです。」といいました。覚悟を決めるとは「開き直る」ことです。開き直れば気持ちは落ち着きます。心が安定すれば、障害が持っているさまざまな症状も軽減します。症状が消えて無くなることはありませんが、処理の仕方が上手になります。障害を隠すことなく周囲に理解を求めることもできます。アスペルギーを含む広汎性発達障害が正確に診察できる専門医はまだ少ないので、長期間の予約待ちになります。それでも診察を受ける価値は充分あります。原因不明の症状で悩んでいる人は、ぜひ予約待ちの苦勞をいとわず診察を受けてください。その先にはずっと新しい世界が開けてくはずですよ。